講演　レジュメ　　野口　昇

東アジアにおけるユネスコ活動から平和について考える

はじめに

ユネスコと日本との深い関係　　（１９５１年６月、占領下の日本の加盟を承認したユネスコ総会の様子を記録した映像あり）　別紙資料あり

東アジアにおけるユネスコ活動　―　ユネスコ北京事務所の活動を中心に　―

(野口は、１９９７年３月から２００１年３月まで、ユネスコ北京事務所長として勤務。中国、モンゴル、北朝鮮へのユネスコ代表を兼ねる。帰国後は、松浦事務局長により東アジア担当のユネスコ・アドバイザーに任命される）

１．東アジア５か国のユネスコ国内委員会会議　対話と協力

韓国からの提案による。１９９８年３月、北京で第１回東アジア・ユネスコ国内委員会会議を開催（中国、モンゴル、北朝鮮、韓国、日本が参加)。第２回（１９９９年、モンゴル)、第３回（２０００年、マカオ）注：マカオは、ユネスコの準加盟国

２００1 年の国連「平和の文化 10 年」発足にちなみ児童画コンテストを実施。優秀作品でカレンダーを制作。(タイトル：Culture of Peace -Living Together in Harmony 2001)

２．松浦ユネスコ事務局長の３か国公式訪問

１９９９年１１月にユネスコ事務局長に選出された松浦晃一郎氏は、就任後いち早く２０００年８月に、北朝鮮、中国、韓国を公式訪問された。(注：事務局長選挙での北朝鮮の対応) 北朝鮮の要請を受け、松浦事務局長の指示により教科書印刷用紙を提供。

３．東アジア子ども芸術祭の開催

松浦ユネスコ事務局長の提案に基づき、ユネスコ主催による東アジア子ども芸術祭が開催されることになる。２００１年８月、第１回芸術祭は、北京で実施。開会行事は、北京の世界遺産「天壇」構内。第２回は、日本の福岡市で実施。北朝鮮からも参加。(ソロで歌を歌った女の子は、その後、金正恩総書記夫人に）　第１０回まで実施。

女優の栗原小巻さんが、毎回、特別ゲストとして参加。開会式で自作の詩を朗読される。

４．北朝鮮の友好芸術祭やピョンヤン国際映画祭への参加

松浦ユネスコ事務局長の代理として、４月の友好芸術祭や２年に 1 回開催されたピョンヤン国際映画祭に参加させていただいた。２０００年の映画祭では、山田洋次監督とご一緒。(金日成首席、金正日総書記も、山田監督の“寅さん”シリーズが大好きだったとのこと）

５．文化遺産の保存修復事業

１）モンゴル

かつてのモンゴル大帝国の首都、カラコルムの調査と緊急保全策。

（後に、世界文化遺産の一部となる）資金は、日本政府提供のユネスコ信託基金

２）中国

・交河故城（トルファンの近く）保存やクムトラ千仏洞の調査・保存事業

・長安（西安）の大明宮含元殿の基壇の修復・復元事業

日本の遣唐使が玄宗皇帝に謁見したこともある含元殿の保存・復元事業。

日中両国の専門家委員会での検討を踏まえて実施。資金は、日本政府がユネスコに提供した信託基金。この大事業は、ユネスコの資金の下に、綿密な調査や文化遺産修復の基本原則を踏まえ、日中合作事業として完成。完成後、日本から“平成の遣唐使”が訪問。（日本の民放が放送した映像あり）

（２０１４年、シルクロード沿いの文化遺産を一括登録した世界遺産「シルクロード：長安―天山回廊の交易路網」の一部に入る。３か国共同提案）

３）北朝鮮

・高句麗壁画古墳の保存と世界遺産登録への支援

日本の高松塚古墳やキトラ古墳への影響でも知られる高句麗壁画古墳の保存・修復と世界遺産登録に向けて、故平山郁夫先生（ユネスコ親善大使）は、何度も訪朝され、物心両面から尽力された。計測機器等の提供、北朝鮮専門家の研修、研究所の設置支援など。（映像あり）

世界遺産登録の最終段階で中国側から注文。２００４年に、北朝鮮の「高句麗古墳群」は、中国側の「高句麗前期の都城と古墳」と同時に、しかし別々の物件として世界遺産に登録。ここでも、文化ナショナリズムを痛感。

６．所感など

・この地域での日本人としての機微な立場　（北京の北朝鮮大使への表敬訪問時。しかし、帰国に際しての中国や北朝鮮の対応）

・北朝鮮でも反日一辺倒ではなく、しばしば日本への好意的感情もあると感じる。

・親しくなり酒を酌み交わすようになると、同じ東アジアの文化や人情を共有していると実感。かつての漢字文化圏、儒教文化圏の影響。

・訪中されたコフィ・アナン国連事務総長との懇談（数回、地域事務所ならではの経験）

・二国間協力では得られないようなユネスコを通じた協力の意義を再認識。

・平山郁夫先生の至言「文化財を守ることは、人の心を守ること」　「アジアの長い歴史の中で、アジアを分母に日本を分子に考えると良い」

ユネスコと日本との深い関係

１．新渡戸稲造と国際知的協力委員会

第１次大戦後、国際連盟の下で活動した国際知的協力委員会（ICIC)。
国際連盟事務次長であった新渡戸稲造は、この ICIC の代表幹事として活躍。
ICIC は、ユネスコの前身の一つとなる。

２．日本のユネスコ加盟

１９５１年６月、ユネスコ総会は、まだ占領下にあった日本の加盟を承認。
国連加盟（１９５６年１２月）に５年も先立つ。

３．世界で最初のユネスコ協会の誕生

１９４７年７月、仙台にユネスコ協力会が誕生。世界の民間ユネスコ運動の発祥の地。
その後、またたく間に全国各地に設立。同年１１月、第１回ユネスコ運動全国大会開催

４．パリのユネスコ本部に日本庭園

１９５８年、パリにユネスコの新庁舎が完成。日本はここに日本庭園を寄贈。イサムノグチが設計。毎年、５月には日本庭園に鯉のぼりが上げられる。
被爆の二つの記念物。１９７６年、長崎市長が浦上天主堂の被爆した天使頭像を寄贈。日本庭園に面した壁に飾られる。１９９５年、日本のユネスコ関係者の募金により、日本庭園に隣接して「瞑想の空間」が設置。設計は、安藤忠雄。床の石材は、広島で被爆した元安橋の石。

５．松浦晃一郎第８代ユネスコ事務局長

１９９９年１１月、日本の松浦晃一郎氏が、第８代ユネスコ事務局長に選出される。アジアから初めてのユネスコ事務局長。１０年間にわたりユネスコ活動を牽引。

ユネスコの概要（2023年7月）

1. 加盟国数　194(アメリカ合衆国　2003年10月復帰。2018年末再度退。
　　2023年7月再加盟）（パレスチナ加盟　2011年11月）
＜参考＞　　国連加盟国数 193
　　日本のユネスコ加盟　1951年7月
　　日本の国連加盟　　1956年12月

2. 2022－2023年度予算
　　予算総額(2か年)　　約 1,500百万ドル
　　任意拠出金等を含む。（通常予算は、約535百万ドル）
＜注＞米国は、パレスチナのユネスコ加盟を受けて、2011年11月から分担金停止。
　　2017年10月米国はユネスコからの脱胎通告。2018年末脱退。2023年7月再加盟）

3. 加盟国の分担金分担率---ユネスコ加盟国の分担率は国連加盟国の分担率に準ずる。日本の分担率(国連) 2022年　8.03%、米国22%、中国 15.2%

4. 事業計画の重点事項
包括的目標：平和および持続可能な開発への貢献
＊ 国連の持続可能な開発目標 「SDGs」(2016－2030年)への協力
　一、持続可能な開発のための教育の推進など
＊ アフリカとジェンダーの平等などを重視

＜教育＞
　　世界教育フォーラム(2000年、ダカール)目標実現への努力
　　万人のための教育(Education for All)、貧困解消への教育の役割、
　　エイズ予防教育、教育の質の向上
　　国連「持続可能な開発のための教育の10年」（UN Decade of Education for Sustainable Development 2005-2014）
　　2015年以降、Global Action Programme(GAP) on ESDとして継続
　　現在　UNESCO Education 2030

＜科学―自然科学および人文社会科学＞
　　地球環境の保全:人間と生物圏、海洋、淡水問題(水文学)に最重点
　　バイオ・エシックス(生命倫理)：人権の増進、社会変容の研究など

＜文化＞
　　文化遺産の保護：有形文化財－「世界遺産条約(1972年採択)」
　　無形文化財－「無形文化遺産の保護に関する条約(2003年採択)」
　　文化の多様性－「文化多様性に関する世界宣言(2001年採択)」
　　「文化多様性条約(2005年採択)」
　　文明間・文化間の対話

＜コミュニケーション・情報＞
　　デジタルディバイドへの取り組み
　　表現の自由の促進，知識社会へ向けて(Towards Knowledge Societies)、「世界の記憶」の登録(Memory of the World)